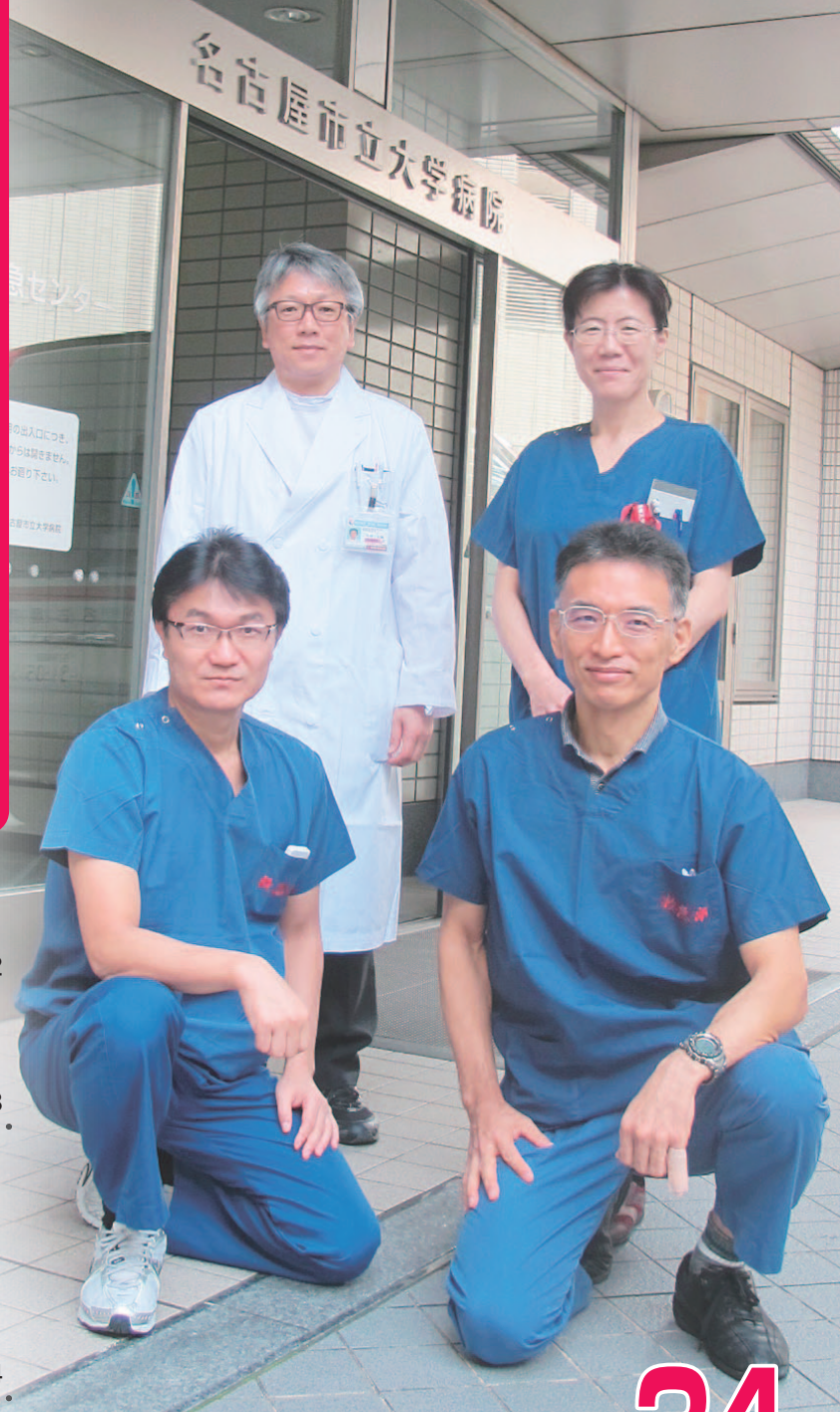


名古屋市立大学病院

# さくら ほっと NEWS



## 特集

- ▶ 名市大病院のチカラ Vol. 2 P. 2
- ▶ ノロウイルスにご用心
- ▶ 認定・専門看護師のご紹介 P. 3

## お知らせ

- ▶ 患者情報ライブラリーセミナーのご案内
- ▶ さくらやま知っとこ！セミナーを開催しました
- ▶ さくら基金がインターネット対応になりました P. 4

救命救急センター・救急科の中心メンバー  
 前列左から服部救急科部長、笹野救急科部長  
 後列左から大原救命救急センター長、松嶋救急科部長

**vol.34**  
 2015年11月

## …国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています。…

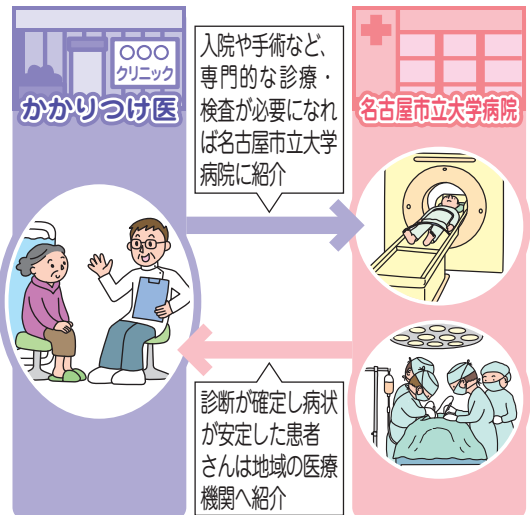
### 国の方針⇒医療機関の機能分化

#### 特定機能病院(名古屋市立大学病院)

入院や手術などの専門的な診療・検査を含む高度先進医療を担当

#### 地域の医療機関(かかりつけ医)

風邪などの日常的な病気や症状が安定した慢性疾患などの患者さんに対する医療を担当



### 地域医療連携の推進

診断が確定し症状が安定した患者さんは地域の医療機関にご紹介しております。  
 ※症状が悪化した場合などは、改めて名古屋市立大学病院へ紹介されます

## 名市大病院のチカラ Vol.2

### 救急医療体制を強化

平成27年9月に救急科部長として3名の医師が着任し、当院の救急医療体制は更なる強化を遂げました。重篤な救急患者さんを1人でも多く救うため、これまで以上に努力していきます。

#### 「大学病院」の救命救急センターとして

救命救急センターとは、一般の救急医療機関では対応できない重篤な救急患者さんに対し24時間体制で高度な医療を総合的に提供する施設であり、当院は平成23年4月に指定を受けました。市内には当院以外にも5つのセンターがありますが、当院の最大の特徴は「大学病院」であることです。高度かつ専門的な治療が必要な患者さんに対し、各診療科の医師が連携し、適切な医療を提供できます。今後も皆さんに24時間365日の安心を提供し続けられるよう努めて参ります。



大原救命救急センター長

#### 着任した救急科部長からのメッセージ



笹野部長

#### ～「高度急性期病院」としての使命を果たす～

地域の医療システムが変わりつつある中で、当院は「高度急性期病院」としての重要な役割を担っていく必要があります。この度の体制強化は、その実現に向けて行われたものです。新しくなった救急科の一員として、病院内における全診療科のスタッフと協力しながら、当院のみならず地域全体の救急医療体制の発展を目指して日々研鑽し続けます。

#### ～理想の救急医療に向けて注力～

私は、苦しんでいる患者さんの病状を瞬時に判断し迅速に対処する救急医と深い知識に基づく質の高い専門治療を行う専門医が協力・連携することで理想的な救急医療が実現できると考えています。その実現のためには「高いレベルの救急医と専門医の存在」が肝要になりますが、当院ではそれが十分備わっていると確信しています。当センターをこれまで以上に飛躍させ、市民の皆様へ理想的な救急医療を常時提供できるよう皆で一丸となって頑張らせて参ります。



服部部長

#### ～母校での更なる飛躍を誓う～

これまで救急医学・医療を専門に学んできましたが、今回、母校に戻れたことを大変光栄に思っています。救命救急センターは命に関わる重篤な患者さんを受入れ、治療するところです。市民の皆様やご家族の方が一の時に備え、私達は救急で来院される重篤な患者さんを確実に救えるように、日々研鑽して参ります。



松嶋部長

### 皆さまへのお願い

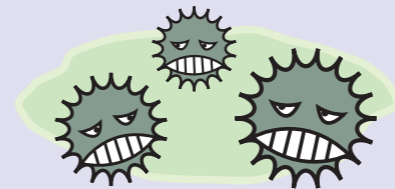
当院の救急は、他の医療機関では対応が困難な重篤な患者さんにとって最後の砦となるべく努めており、こうした方を出来る限り多く受け入れることで市民の皆さまに安心を提供してまいりたいと考えております。そのため、症状の軽い方等については他の医療機関へのご受診をお願いすることもございます。限りある医療資源をできる限り有効に活用するため何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

## ノロウイルスにご用心

ノロウイルスによる食中毒や感染は、毎年11月頃から増加し始め、12月～1月がピークとなります。しっかり感染対策をしてノロウイルスを予防しましょう。

#### 【感染経路】

- ①患者の吐物やふん便から手などを介して口からウイルスが入る場合
  - ②咳などによって口からウイルスが入る場合
  - ③ウイルスに汚染されている二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- などが挙げられますが、①によるケースが最も多いと考えられています。



#### 【対策】

- ①調理を行う前・食事の前・トイレの後・下痢患者の吐物処理やオムツ交換の後には手洗いをしましょう。(アルコール消毒薬は効きにくいいため、流水と石けんで洗いましょう。)
  - ②咳が出る人はマスクをしましょう。
  - ③二枚貝などの食品は、中心部が85℃～90℃で90秒以上加熱をされたものを食べましょう。
  - ④吐物などで床が汚染した場合は、0.02%の次亜塩素酸ナトリウム溶液(※)で拭き取り、その後に水拭きをしましょう。
- ※家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも代用できます。



感染制御室

## 認定・専門看護師のご紹介

認定・専門看護師とは、高度化・専門化が進む医療界において重要な役割を担う「看護のスペシャリスト」の育成を目的として、日本看護協会が管理運営する制度です。当院では、資格を取得した看護師が様々な現場で活躍していますが、今回はその一部をご紹介します。

#### 不妊症認定看護師



若林 加菜子  
(8階北病棟 助産師主任)

近年、社会に求められる女性の役割が高まる中で晩婚化が進み、不妊症・不育症で悩む方が増加しています。そのような悩みや辛い思いを抱える方に対して的確な情報提供をし、ご夫婦にとって納得のいく決断ができるように支援するのが不妊症看護認定看護師の役割です。また、若い世代に妊娠について正しい知識を得てもらうため、地域に対しての不妊予防教育も行っていきたいと考えています。

#### 家族看護専門看護師

家族の中で誰かが病気になった時、生活の変化が生じることで患者さんを含むご家族全員が心身ともに疲弊してしまうことがあります。家族看護専門看護師の役割は、患者さんの回復を促進するためにご家族を支援することです。ご家族の価値観を大切にしながら、家族全体の健康に結びつこうとサポートすることで、家族の意思決定能力やセルフケア能力を高めることを目指しています。



山本 房美  
(NICU・GCU看護師)

看護部

## 患者情報ライブラリーセミナーのご案内

患者さんや一般の方などを対象に、病気や治療法などに関するセミナーを定期的で開催しております。事前申込不要・費用無料ですので、是非ご参加ください。(先着40名程度)

テーマ **知っておきたい聞こえのお話**

日時 平成27年12月21日(月)  
14時30分～15時00分

講師 耳鼻いんこう科助教  
高橋 真理子



テーマ **血液内科疾患**

日時 平成28年2月

講師 血液・腫瘍内科 医師

※詳細が決まり次第、当院ホームページ上でご案内いたします。

場所 **患者情報ライブラリー(病棟・中央診療棟地下1階)**

患者情報ライブラリー

## さくらやま知っとこ！セミナーを開催しました

平成27年10月15日(木)に、外来診療棟1階アトリウムで「さくらやま知っとこ！セミナー」の第1回目を開催しました。

当セミナーは、当学の看護実践教育モデル検討委員会が地域住民に対する健康支援活動の一環として始めたものであり、今回は脇本寛子准教授(当学看護学部)が「咳エチケットと適切なマスクの着用」について、平原広登師長(当院看護部)が「心臓発作・脳卒中を予防するために」についての講演を行いました。計62名の方々が参加され、熱心に講師の話を聞くとともに、好評や今後の要望等についてのご意見を多く出してくださいました。

今後も引き続き開催していく予定ですので、是非ご参加ください。



看護部

## さくら基金がインターネット対応になりました

当院では、さくら基金を設置するとともに広くご寄附の協力を仰ぎ、皆様からいただいたご寄附を医療の充実を図るために活用させていただいております。

ご寄附に際しては、銀行窓口でのお振込又は当院への来院をお願いしておりましたが、新たにインターネットを利用してのご寄附が可能となりました。

ホームページ(<http://www.nagoya-cu.ac.jp/2826.htm>)からお申し込みいただくことで、クレジットカード・コンビニエンスストア・インターネットバンキング(pay-easy)での決済がご利用いただけます。

ご不明な点などがございましたら、病院事務課さくら基金担当(052-858-7113)までお問い合わせください。

何卒、当基金の趣旨をご理解いただき、ご寄附のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

病院事務課